

令和 2 年度県政アンケート調査の結果概要（県立図書館関係）

1 概要

- ・令和 2 年度県政アンケート調査（所管：みらい企画創造部）において、県立図書館に係る調査を実施
- ・調査対象は、県内在住の満 18 歳以上の男女個人。標本数は 2,500 で、回収数は 1,534 件（回収率 61.4%）。調査期間は令和 2 年 8 月下旬～9 月上旬で、郵送によるアンケート調査。令和 2 年 2 月に結果公表

2 県立図書館に係る調査結果

(1) 調査項目 「県立図書館について」 4 問

(2) 調査目的 今後の機能強化や情報発信に活用

(3) 結果概要

設問	結果概要
問 4 P21～28 利用状況	・『回数に関わらず行ったことや利用したことがある』 19.4% ・「行ったことはないが、今後利用してみたい」 15.5% ・「行ったことはなく、今のところ行く予定はない」 62.2%

【特徴】

- ①『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』:「男性」16.9%「女性」21.7%
- ②「行ったことはないが、今後行ってみたい、又は宅配サービス等を利用してみたい」:「男性」13.9%「女性」で 17.1%
- ③性・年齢別で、『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』が、「男性」では「50～59 歳」の割合が最も高く (23.5%)、「女性」では、『18～49 歳』で 25%超
- ④『18～39 歳』の「女性」の約 1 割が、年に複数回以上来館
- ⑤居住地区別で、『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』では、「村山地域」が最も割合が高く (30.1%)、その他の「最上地域」「置賜地域」「庄内地域」では、「行ったことはなく、今のところ行く予定はない」が約 7 割 (村山約 5 割)
- ⑥「山形市」では、『(回数にかかわらず)行ったことや利用したことがある』が 46.8%で、「行ったことはないが、今後行ってみたい、又は宅配サービス等を利用してみたい」が 15.7%となっており、合わせて 62.5%
- ⑦行った目的は、「本や雑誌・DVD等を借りる」が 48.5%で最も割合が高く、次いで「館内で本や雑誌・新聞を読む」が 37.3%、「学習スペースを利用する」が 19.5%、「郷土の歴史や文化を調べる」が 12.7%の順

設問	結果概要
問5 P29～31 新設・拡充された機能等の認知状況	第1位「閲覧席の増加（約2.7倍）」7.0% 第2位「こどもエリア新設」6.8% 第3位「手に取ってみることのできる図書の増加（約1.2倍）」6.7% ・「知っているものはない」68.4%

【特徴】

- ①「知っているものはない」は68.4%
- ②性別にみると、「館内全エリアで利用できる無料 Wi-Fi の新設」以外の項目で「女性」の認知度が「男性」より高い。

設問	結果概要
問6 P32～34 今後取り組むべき事業	第1位「講演会・研修会の開催」21.3% 第2位「移動図書館や宅配サービスの充実」20.5% 第3位「読み聞かせ会など幼児・児童向けイベントの開催」19.1%

【特徴】

- ①性別にみると、「読み聞かせ会など幼児・児童向けイベントの開催」、「移動図書館や宅配サービスの充実」では「女性」の割合が「男性」より高い。

設問	結果概要
問7 P35～37 ICT機能等の利便性	第1位「スマートフォン対応の利用案内ページ等の充実」32.2% 第2位「電子書籍の導入」23.0% 第3位「郷土資料のデジタル化の促進」21.6%

【特徴】

- ①年齢別にみると、「電子書籍の導入」では、年齢層が下がるにつれ割合が高くなる傾向があり、「スマートフォン対応の利用案内ページ等の充実」では「30～39歳」の割合が最も高い

（４）考察

- ① 県立図書館への関心は女性が高い。女性利用の強化や男性利用のてこ入れ等、新規利用者拡大に向けた戦略づくりに活用
- ② 「行ったことはないが、今後行ってみたい、又は宅配サービス等を利用してみたい」と考える県民は15.5%と非常に多く、多様な手段による来館のきっかけづくりが必要
- ③ 県立図書館からの居住地までの距離が、利用状況と相関関係にあることは想定どおり。改めて全県民を意識した県立図書館としての対応が必要
- ④ 県立図書館のリニューアル機能は、まだまだ認知度が低い。来館者でも館内の機能を知らないものと考え、繰り返し、発信していくことが必要
- ⑤ ウェブで情報を取る際の主な手段が、スマートフォンに移行していることは明らか。次期システムではスマートフォンページの強化が必須であり、加えて、スマートフォンの機能やアプリを図書館サービス向上につなげていく方法も検討が必要